

議員

## 森林管理認証材の利用促進や

### PRをどう推進するのか

町長

COCC認証の取得を推進し体制を整えてから前向きに検討したい



議員

津別町内での認証材の利用促進を図るため、新ふるさと定住促進条例に認証材を使う

※COCC認証とは、適正な森林管理のもとで認証された林産物が、製造・加工・流通の各過程で、認証材以外の生産物が混入しないように管理・製造されていることを認証するもの。認証材製品が適切に分別・表示され流通が増えることで、森林の破壊や劣化を防ぐとともに、優良木材の消費が進むことにもなります。

※SGEC（緑の循環認証会議）

と奨励金交付という要件項目を追加してはどうですか。

町長

認証材で認証住宅を建設する場合、工務店等もCOCC認証を取得する必要があります。

まず、町内の素材生産業者及び木材加工業者に対するSGECCOCC認証の取得推進を図り、町内産の認証材が住宅建設に活用できる見通しが立った時点でどのような内容で、どの程度の助成額がよいかを検討し、津別町新ふるさと定住促進条例へ追加したい。

議員

津別町の公共建築物への認証材の利用を今後どのように考えていますか。

町長

森林管理認証を取得した本

町としても、認証材の利用拡大に対する取り組みを推進していく必要があります。その手法として公共建築物への利用は、認証材の利用促進とPR効果があり、有効な手段と考えています。

議員

認証材のPRの一環として現在、国産材の活用協定を結んでいる東京都港区に、話題づくりと他の自治体の差別化を図るために津別町の町有林に「港区認証材の森」をつくり、港区に寄贈してみてもどうですか。

町長

これまでは、津別産トドマツを使用したフロアー材などの活用促進PRや、港区内の施設において、特産品の展示、地域材で製作したブロックの展示などにより、協定市町村のPR活動等が行われています。

本町とだけ特別な取り組みを実施することは難しいと思いますが、森林認証に関するPRという観点から、「認証材の森」の寄贈を含め、双方にとって効果があり、他の市

町村にも参考となるような取り組みについて港区と検討し、必要があれば前向きに取り組んでいきたいと考えています。

議員

森の育成管理から木材加工流通システムに至るまでの過程を盛り込んだポスターやDVD、パンフレットなどの宣伝媒体を作成し、マスコミや企業等に売り込んではどうですか。

町長

森林の認証率が90%を占め、愛林のまちでもある本町としては、森林管理認証に基づく森づくりから認証材の生産・利用などに関する一連の取り組みを率先して情報発信することは、国内における森林管理認証制度のPRを図る上で重要であると考えています。そのためCOCC認証取得に対する助成制度などを有効活用し、地域の関係機関と連携を図りながら、認証材の流通、利活用体制の構築を推進させ、体制が整い次第、効果的なPR方法を検討し、積極的な情報発信に努めたいと考えています。

- 地方創生について
- 教育環境について

## 議員

### 地方創生「地方版総合戦略」 策定の取り組み方は

#### 町長 まちなか再生事業と共に

#### 検討策定していきたい



計画をつくることになります。人口減少は町の財政に影響を及ぼすことが大きいので、まちなか再生事業については、財政的裏付けを精査し取り組むべきではないか。

議員

指摘を受けながら計画をつくり、実践に移行していきたい。

町長

津別町独自のプランづくりをすべきではないか。

議員

農家に従事する若者が増えている、このような傾向を拡大していきたい。また、津別ならではの取り組みとしてバイオマス構想を実現させ、新たな雇用創出も生み出し、町独自の資源を活かしたものを考えていきたい。

町長

「地方版総合戦略」は人口問題を中心に、現況を指し示すさまざまな指標の中から進捗を表現するのに最も適した指標を立てて（重要業績評価指標）、流入人口をどうするか、何をどうするか5年間の

議員

複合施設について具体的な考え方は。

議員

役場庁舎を含む複合施設、これをどのような形で整備していくのか、何と何を複合させていくのか、そしてどこにつくっていくべきか、専門家を中心とした共同研究により、慎重に進めていきたい。

町長

まちなか再生事業における中心市街地活性化と、複合施設の建設などの基本的な考え方は、どのようなものか。

議員

まちなか再生事業は、安定、あるいは持続可能なまちなか再生であり、ある一定の区域内において必要な機能を兼ね備えたコンパクトシティのあ

町長

27年度から本格的に始まる地方創生について、津別町における「地方版総合戦略」策定についてどのような観点、考え方で取り組むのか伺いたい。

議員

国は、まち・ひと・しごと創生として、2060年を視野に、人口減少問題の克服と成長力の確保について長期ビジョンを策定し、2020年を成果目標年度として基本目標と重要業績評価指標を定め、設置目的、さらに各種施策を

町長

含めた2015年度から2019年度までの5カ年の総合戦略を策定したところです。これに基づき町は人口減少を止める、あるいは緩和を図り、成長力の確保、安定した雇用を図るための「地方版総合戦略」を策定することとなります。

議員

まちなか再生事業は、安定、あるいは持続可能なまちなか再生であり、ある一定の区域内において必要な機能を兼ね備えたコンパクトシティのあ

町長

複合施設について具体的な考え方は。

まちなか再生事業は、安定、あるいは持続可能なまちなか再生であり、ある一定の区域内において必要な機能を兼ね備えたコンパクトシティのあ

## 議員

### 学校統合における現状と対応は

**町長**  
農家の方たちとの話し合いの中では、難しいという声が大い。

**議員**  
ふるさと納税制度を拡大し6次産業化と組み合わせては

どうか。  
**町長**

地域の特性を活かし、農業や林業における津別ブランド加工返礼品の検討もしていきたい。

### 教育長 統合してよかったと言える環境づくりにも努める

**議員**  
中学校統合後の経過と対応状況について伺いたい。

#### 教育長

生徒から新しい仲間ができたとか、学習面での競争心がうまれたなどの声が聞かれ、全体的には当初懸念されていた新しい環境への慣れや、生徒間の関係は問題なくスムーズに移行しました。引き続き望ましい教育環境となるよう努力したい。

**議員**  
新学期から本岐及び活汲小

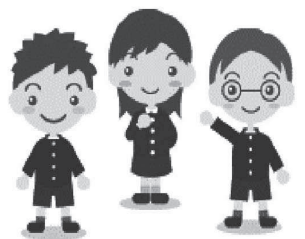
学校が津別小学校に統合されますが、保護者や児童の不安に対してどのような対応策を考えているのか。

#### 教育長

統合に備えて、3校の交流事業の実施や、PTA及び児童クラブ活動の交流事業も行いました。

今後の対応は、教員の増加配置や町独自の取り組みによる少人数学級や支援員の配置、さらには職員室の移設などにより、すべての児童に楽しく学校生活が出来るよう取り組むことにしています。

**議員**  
いじめ問題について、学童保育や学校を含めてどういう取り組みを行っているのか。



#### 教育長

いじめ防止は、すべての教育施設においての問題として切実に受け止め、徹底して取り組むべき重要な課題であると認識しています。

学童保育でいじめが以前あったようですが、現在はありません。児童館におけるいじめ根絶対策として、過去に起きたいじめを教訓に家庭との連絡帳を利用しています。

学校とは、子どもの生活の連続性を確保するため、お互い行事への指導員や教職員が参加するなど、児童館職員の学校訪問等を行い注意しています。

#### 議員

中学校の部活で極端なリンチ的ないじめがあったと聞いていますが、事実かどうか。

また、教室内で危険なものを振りかざして、暴力的な行動をとる児童生徒がいるとも聞いていますがどうなのか。

#### 教育長

中学校でのいじめ関係については、昨年11月にある生徒が、更衣室でいじめに相当する行為を働いたと報告を受けています。速やかに実態を把握の上、対策協議をもち解決を図りました。

小学校の暴力については、把握していませんでした。暴力行為は学校の秩序を乱し、学習を妨げることになるので、適切な指導、措置を講じ、安心して学べる教育環境づくりに努めていきたい。

#### 議員

スクールソーシャルワーカーやこどもSOSネットの活用を図るべきではないか。

#### 教育長

スクールソーシャルワーカーは全道的にも活用が少ない。教育相談員の有効活用により、子どもの悩みや先生の悩みに応えていけるよう体制をとっていければと考えています。

茂呂竹 裕子 議員

- 「子育て支援のまち」(仮称) 宣言について
- 特定健診の料金見直しについて

議員

## 「子育て支援のまち」宣言をし 若年層の定住化を

町長

先進地の実情など学び  
今後検討していきたい



議員

津別町は、子どもの医療費無料化を中学生まで拡大するなど数々の子育て支援策を行い、どこの町より勝っていると自負しています。来月開園の認定こども園は、保育料、給食費の軽減、一時保育、病児保育の実施、子育て支援センターの開設に多額の予算を計上し手厚い支援をしようとしています。若いお母さんの相談、交流、一年を通しての子どもの遊び場として活用されると思います。子育てに対する議会と町長の長年の思いの集大成とも言える「こども

町長

園」の開園を期に「子育て支援のまち」宣言を他町に先駆けて行い、町内外に大々的にアピールし、若年層の定住促進を図ってはどうか。

国内で宣言をしている自治体は4市町、道内では稚内市、中頓別町、札幌市です。本町はこれまで新生児誕生祝、ブックスタート、中学生までの医療費全額助成、学校支援員の配置・津別高校での給食実施など、国や道の制度のほか町独自の支援を行っています。この4月には、子育て支援センターを併設した認定こども園「こどもの杜」が開園します。これにより認可保育所、子育て支援センターのある市町村とようやく肩を並べられると思います。子育て環境を徐々に整えてきましたが、働く場の確保や住環境の整備な



「子育て支援センター」0歳～1歳の親子

議員

ど課題がまだあり、もうしばらく先進地の実情を学びながら、宣言について今後検討していきたいと思います。

管内の町でも同じ議論が出てきています。安心して子育てができる環境を整え、若い人たちに住んでもらい、人口減を食い止めるために、いち早くアドバランを高く上げたいと思います。

一月末に行った若い人との意見交換会では、「よそからいいねと言われるものがある」、そのことがわかる仕組みに、「津別に来るまでは、こんな良い町と思っていなかった。足を運んでくれる人が増えるよう発信すべき」のご

町長

意見がありました。宣言をすることが、宣伝効果や話題性が大きいと考えます。

今回この質問をもとに、今宣言をしている町を調査し、宣言の内容を見たところ、佐賀県みやき町が24年9月1日に宣言した内容が非常にわかりやすく心にしみる感じがありました。札幌市民の子育て支援宣言も「市民一人一人が優しさや思いやりを宣言し実行する取り組みです」というので、すごいなと思いました。こども園をきっかけにもう一度子育て支援を考え直し、どんな宣言がよいのかも検討していきたいと考えます。

議員と若い人との交換の中で「実際にこんな良い町とは知らなかった」と言われたことは私も職員も大変励みになる言葉です。わからないところも随分あるということですが、ホームページや「まちの仕事」「暮らしのガイド」などで十分伝わるようにしたいと思います。若いお母さんが作るマップなど、独自のすばらしい活動もあり、支援していきたいと思っています。

## 特定健診・がん検診

種類	対象者	内容	料金
特定健診	津別町国保に加入されている30～74歳の方	問診、身体計測、診察、血圧測定、尿検査、血液検査	1,000円
胃がん検診	40歳以上の方	バリウム検査	900円
肺がん検診		胸部X線検査	200円
大腸がん検診	50歳以上の男性	便潜血検査(検便2日分)	400円
前立腺がん検診		血液検査	500円
乳がん検診(2年に一度)	40歳以上の女性	マンモグラフィ(レントゲン)検査、視触診	1,000円
子宮頸がん検診(2年に一度)	20歳以上の女性	子宮頸部の細胞診検査、エコー検査(集団検診のみ)	800円

## 受診料軽減で特定健診 受診率の向上を図っては

**町長** 必要性の啓蒙と交通の確保  
バック割引など考えたい

**議員**

特定健診は病気の予防、早期発見、早期治療により重症化を防ぎ町民が健康に生きられるよう行われるものです。重症化すれば医療給付費がかさみ、一般会計の繰入金や保険料値上げにつながります。これらの意味がわかってもな

お受診率が低迷している原因について、どのように考えますか。

**町長**

特定健診は平成20年に始まり、24年度は38・7%、25年度27・6%、26年度は20%台になると思われます。受診率はいいとは言えませんが、原因として町民が特定健診に積極的になつていただけないという点ではないかと思ひます。特定健診を受けた方は継続して受診してもらおうこと、未受診者に受診を促していくことが受診

率向上につながると考えます。特定健診とがん検診の必要性を啓蒙し、交通の確保を検討するとともに、自治会の協力を得ながら受診率アップに努めていきたいと思ひます。

**議員**

私の周囲でも高齢化で外に出られない人、町民会館まで行けないという人がいます。また、年金暮らしで経済的余裕がなく受けられない人や、せつかく受診するならがん検診も受けた方が、それぞれ別料金でも受けれられないという人もいます。特定健診の目的を果たすには、気軽に受けられる料金改定が必要ではありませんか。

**町長**

津別町の料金は管内で標準的な金額となっております。がん検診は生活保護受給者を無料としたほか、年齢区分により無料の制度をつくりました。が、受診率が高くなりません。近隣町を見ると津別町より料金が低いところでも31・0%、高いところが40・7%となつており料金の高低が率を上げるとは言い切れな思ひま

す。管内の健康推進員制度を持つ町では健診の奨励を行い、健診率44・9%と北網圏でトップの率となっております。

**議員**

料金が安いだけでは町民会館まで歩いて行くということにならないし、ハイヤーを使つて行つて受診するという気にもなりにくいと考えます。推進員制度などで声をかけられ、おつくうな気持ちを押しのければ受診率は上がると思ひますが、推進員制度の採用のめどはあるのですか。

**町長**

27年度から始まる地域福祉計画では、受診率アップのために交通の確保をすると記述しています。例えば小さなバスやワゴン車を健診にあわせ、足の不自由な人に出していくことも検討されていますので、27年から実施していきたいと思ひます。声かけを専門業者に委託するか推進員制度にするか、料金も特定健診とがん検診を受けた場合、セット割にするなど、さまざまな要素を検討させて下さい。

# 一般質問

篠原 眞稚子 議員

- 教育行政について
- まちなか再生事業について

議員

通学合宿の実態はどうなっているか

教育長

今年度、9月、11月と2回実施している



議員

通学合宿は、子どもたちの生活体験を豊かにすると同時に、地域の大人の参画を得て実施することにより、地域の教育力を高める活動として行われ、家庭における望ましい生活習慣の定着と、それを支える子どもを核としたぬくもりのある地域コミュニティの再生を図ることを目的としていると聞いていますが、津別町の取り組みについて伺います。

教育長

通学合宿の実態としては、4年生から6年生までを対象

とし、平成19年度の2泊3日、参加者3人に始まり、以後24年度まで3泊4日の日程で1回あたり5人から10人程度の参加で実施し、25年度から2回実施、今年度も9月と11月に2泊3日と4泊5日で実施しています。また、この事業の実施にあたっては、本町の社会教育人材バンク「まなびいっぷる」の会員や高校生ボランティア「ひまわり」の方々の協力を頂いています。

議員

効果と新年度の取り組みについて伺います。

教育長

参加した子どもからは、炊事や掃除など、これまでできなかったことができるようになったことがうれしい、また、保護者からも後片付けができるようになった、自分のことは自分でやれるようになった



通学合宿での調理中の様子

た、などの声も届いています。新年度ではさらに合宿期間の延長や、回数の増、さらに合宿事業を支えていただく町民ボランティアの拡大を目指していきたいと考えています。そこに泊まる人というふうになると限定されますので、そういったことも含めて広げていかなければと考えているところです。

いずれにしても、北海道の補助ある、なしにかかわらず非常に効果の高い事業だと思っておりますので、さらに拡充していきたいと思っております。

学習サポート事業の拡充について

議員

教育行政方針の中で学習サポート事業の拡充とありますが、現在どのような内容で実施し、どのような形で拡充されるのか伺います。

教育長

子どもの確かな学力を育てるため、「できた」「わかった」を実感してもらえよう学校教育では、小・中学校ともに授業や指導形態の工夫のほか、学習支援員の配置、少人数学級及びTT指導、さらに課外活動として、小学校では子どもへの理解の状況により、放課後学習を行ったり、長期休業中の学ぶ場としての学校開放と教員の応援、児童館での学習タイムにおける教員の応援など実施しています。

中学校では、テスト前に放課後の学習サポートや、長期休業中の夏・冬休みに学年それぞれ計6日から8日の学習会を実施し、さらに部活動単位でも学習支援をするなど、学校としてのサポート体制もとっています。

議員

## まちなか再生の目指すものはなにか

このほか社会教育事業においても、「学び場」という事業名で学習サポート事業を実施しています。  
新年度では学習サポート及び体力向上プログラムのメニューにも工夫を凝らし、子どもたちが将来自分で道を切り

開いていける太くて丈夫な根、生きていける土台となるしっかりした根、つまり基礎・基本を身につけることを継続目標に、学校と社会教育が連携して事業を進めていきたいと考えています。

教育長

## 「ソトモノ」目線での提案と人材育成

議員

私たちの住んでいるまちは、少子高齢化、人口減少、中心市街地の急速な衰退に伴う市街地機能の低下及び、地域活力の減退など、さまざまな課題があるといわれています。

町長は町政方針の中で、市街地機能の維持保全、環境改善、施設整備、交通網の形成、地域コミュニティの再生、人材の育成など、まちなか再生の調査研究を筑波大学と次代を担う方々とともに、取り組むみたいと述べられています。その考え方について伺います。

町長

今回のまちなか再生事業は高度成長期のように、「にぎわい」を再生するというのではなく、失われつつあるまちなかの機能をどのようにして回復し、維持し、持続していくかを目的としています。

そのための必要な施策としてハード事業は何なのか、ソフト事業は何なのかを、高校生をはじめとした若い人たちからの意見やアンケートなどをとりながら、「ソトモノ目線」の大学生と、本町の次代を担う町民が共同で研究し、提案

していただくというものです。

もう一つの考え方としては、継続した人材の育成がありまます。今回のふるさと財団による補助事業は1年を基本としていますが、その後においても大学から継続した研究を提案されていまして、教育が専門である大学で教える教授と学ぶ学生たちが、本町を訪れ、町民と一緒に町の未来を考えることが続くことは、最高の人材育成になるものと考えています。

議員

まちなか再生の考え方と目

町長

まちなか再生で行われることは、いろいろな調査から生まれる分析結果や、研修会からの提案であったり、ワークショップから提言される方向性であったり夢であります。行政はそれらの提案や提言に対し、責任ある施策の展開が求められることになりまして、未来の津別町に向け、しっかり事業を進めていきたいと考えています。



指す方向性について伺います。

# 一般質問

白馬 康進 議員

- 財政運営の方針について
- 森の健康館の運営について

議員

財源に見合う事業の選択を

考えていくべきではないか

町長

絶えず改善を進めていきたい



議員

今回示された、平成27年から31年までの中期財政計画の5年間で、総額20億円以上の収支不足が推計され、今後この不足分を積立基金から取り崩し、財源不足を補っていくことは分かりませんが、その後の財政対応はどう図っていくのか、その道筋を伺いたい。

また、今後大幅な財源増加が見込まれないだけに場当たり的に基金を取り崩さず、この先もつと厳しく事務事業の見直しや、選択をしながら財源不足を補う方策を考えていくことが肝要ではないのか。

町長

中期財政計画において、一般財源をかなり厳しく見積もり、その中で財源不足において基金からの取り崩しを中心に計画を作成しましたが、その後の財政対応についても国の財政支援や交付税状況を再認識し、一般財源を補てんする特定財源を見つけながら図っていく考えです。また、大きなものとしては、28年に西町団地の建設に2億3千万円、役場庁舎と複合施設の1期工事に3億円、29年は複合施設第2期工事で4億円、小学校の大規模改修工事で4億7千万円、30年には第3期工事に6億円です。それと中学校の大規模改修で1億5千万円。最終年の31年は消防署建設設計を第1期工事に2億円と、一般廃棄物最終処分場の第1期工事5億円を見込んでいます。27年から31年の5年間で、

国営農地の再編整備で町の負担もあるので、随時1億円を積み立てていく計画です。

議員

庁舎建設を3期にわたって行っていくには、財源の裏付けをもっていないければならぬと思います。どれくらいか、の予算を見ているのか。

町長

財源は農協が入るかどうかわ、図書館が入ってくると補助金が出ますし、どういう規模のものをつくるか、またなか再生の中でハードも含め検討していくことなので、それがた時点で実際の設計に入



住民企画課 企画グループ  
まちなか再生事業などを中心に業務を行っています

議員

っていくことになります。

今日質問したことで、町長が庁舎を建てるといふことが確認できました。なるべく自主財源を使わず、基金を取り崩さないで行うということですから、相当起債が必要ではないのか。

町長

起債で全部を行うということではなく、財源の一部を起債でまかなえるようさまざまなものを集合させ、できる限り持ち出しが少なくなるよう検討するということです。



## 議員

### 森の健康館の運営を今後どうするのか

#### 町長

指定管理を継続したい

#### 議員

本来この施設は、多くの町民から親しみやすく利用されていくべきですが、現状はそれようになっていないように思う。今後の利用拡大を含めどう受け止めているのか。

#### 町長

現在は、指定管理者により運営されていますが、これまでの実績をみると、町民の利用する日帰り入浴と宴会の利用が年々減少している状況にありますので、今後は町内の事業所や団体に対し営業活動を行うよう要請しています。

#### 議員

地元町民にとって唯一の保養施設であり、町民が利用しやすいよう図るべきで、宿泊料の見直しや優待券などによる利用拡大を思いきって図れないのか。

#### 町長

何度も議論されてきたことですが、宿泊料に変化がないということは客単価が高いから保たれているのだろうと思います。

宿泊に対し助成券はやれないことではありませんが、これはホテルの努力でお願いできないか。

町はお風呂の助成、送迎バス、家族風呂もつくり、入湯税も上げ、かなり助成していますので、会社の方もやることをもう少し検討していただ

けるようお話ししたいと思います。

#### 議員

平成22年から指定管理者である株式会社アンビックスが、ランプの宿森つべつを運営しています。27年度は指定管理期間最終年度になりますが、この先の運営はどう考えているのか。

#### 町長

観光振興からも重要だという認識ですので、今後もアンビックス社と指定管理を結ぶ

#### 議員

方向で考えています。

平成5年に建設され22年経過し、老朽化が目立ってきているだけに、今後メンテナンスを含め改修費などが、かかってくるのではないかと心配しますが、この点はどう考えているのか。

#### 町長

現時点では、大きな改修などは考えていませんが、建物はつくった瞬間から劣化していくので、必要な補修は進めていきたい。

#### 議員

新年度において、2千万をかけてホテルの従業員宿舎を建設する予定ですが、このことについての経緯と考え方を伺いたい。

#### 町長

この宿舎については、特に夏季の繁忙期において社内からの派遣従業員の住宅確保が困難なために、ホテルの隣接地に簡易ですが設置して、従業員を確保しようとするものです。

